

全国の支社・事業所で1名以上の雇用を目標に アデコ株式会社

- 所在地 東京都港区
- 事業所数 本社・支社・事業所 拠点数 約200

- 雇用障害者：肢体不自由者、視覚障害者、聴覚障害者、内部障害者、知的障害者、精神障害者

障害をもつ方の個々の能力を最大限に活かし、仕事の幅を広げていく

障害をもつ方も周囲の社員もともに成長していくことを願って



人事部障害者雇用推進室 課長

戸咲 光弘さん

アデコ株式会社は、スイスに本部を置く総合人材サービス企業アデコグループの日本法人で、1985年7月に設立されました。ノーマライゼーションの精神に基づき、健常者、障害者の分け隔てがなく、ともに他人を理解し、思いやり助け合っ

て仕事ができる職場づくりを目指して、200を超える国内拠点で、障害者の雇用対

策に取り組んでいます。

その中心となるのが、人事部に置かれた障害者雇用推進室。担当の戸咲光弘課長は、アデコの障害者雇用の実情を、こう語ります。

「さまざまな障害をもつ方たちを1人でも多く、1つでも多くの事業所で雇用したいと考えています。親会社で雇用を広げるために、障害者を1カ所に集めるのではなく、全国の支社・事業所に1名以上配属することを目指し、ともに一生懸命働く職場づくりをしたいと思います。」

アデコが障害者を雇用する背景には、障害に関する配慮は当然としても過剰な特別扱いをする考えはありません。障害者とともに、周囲の人間も成長していくことを目指しているからです。よって、障害者を雇用するためには仕事をつくり出すのではなく、出来る事から取組んでもらい、その結果、仕事の幅が広がっていく、そんな自然体の雰囲気がアデコの職場にはあります」

困った時には手を差し伸べる 自然にできることが重要

西日本営業本部で採用となった聴覚障害の家久人敏生さんは、ハローワークの紹介で面接を受け、就職しました。アデコでは、ハローワークだけでなく、地域障害者職業センター、地域の支援センター、社会福祉法人などと連携して障害のある人たちを受け入れています。福祉関係や学校法人から研修生として紹介されることもあります。

採用に当たっては、面接が重要なポイントとなります。「障害の有無ではなく、言葉遣い、身だしなみを含めた社会性や仕事に対する姿勢が問われます。人材サービス企業だからというのではなく、他の企業でも同じではないでしょうか。派遣先企業と登録スタッフの双方がアデコのお客様です。お客様を気遣える社交性が求められます」と、戸咲さんは言います。

健常者と障害者が分け隔てなく働ける職場、障害特性にかかわる配慮を前提として、当たり前のように身近に共生していける職場を創造することを目指したノーマライゼーションの精神の表れです。

「配慮は思いやりの延長であって、特に構えることではありません。仕事上や生活面で困った時には手を差し伸べる。それが自然の姿で、自然にできることが重要な



チームリーダーの弓削慶子さんとは伝言ボードを通して打合せ



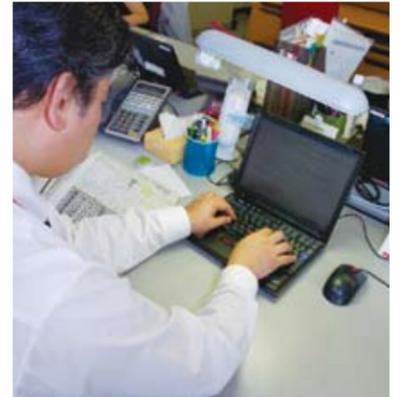
1. 情報の収集



2. 情報をセレクト



家久さんが配属されて、職域の広がった営業サポート課



3. 情報のデータベース化

写真1～3は5紙分の新聞に目を通し、社会情報を収集する家久さん

です」と、戸咲さん。

また、障害者を受け入れることで、周りに「気づき」が生まれ、「気づき」のできる人が増えることによって、社内も活性化しているそうです。「トラブルが起こった時の対処については、現場の責任者と障害者本人から直接話を聞いて、推進室がフォローを行います。人材サービス企業として登録スタッフへのフォローに関するノウハウがありますので、人材の育成、指導、相談等フォロー体制には自信があります」

車椅子を利用する障害者のために、職場環境のハード面での整備を、今後は進めていく予定です。

また、親会社の職場では雇用しづらい障害特性をもつ方も雇用できるように、特例子会社としてアデコソレイユ株式会社を2004年11月に設立。アデコの各部署に分散している業務を集約し、障害をもつ方たちの個々の能力を最大限活かしながら、自立を支援することを目指しています。

●「新規開拓プロジェクト」概要●

新卒営業担当者に対する直接・間接のサポートおよび情報の配信
(クライアント訪問時の情報提供、ニュース、昨今の社会ネタ、話題、業界ネタ等)

営業サポート課開発推進チーム
弓削慶子さん/家久人敏生さん



新卒の営業担当者
現在 33名

Close Up



前向きな人には
キャリアアップの環境を
整えてさしあげたい

西日本営業本部 副部長
玉井 敬一郎さん

障害をもつ方を受け入れる場合は、障害の状況や生活スタイルを理解して、配慮する必要があります。障害を気にする人、職場環境を重視する人、また仕事の中身が重要と考える人など考え方は人それぞれで、さらには障害の種類、程度も配慮の対象になります。よって、仕事に慣れるまでは注意が必要です。ご本人だけでなく、お互いが成長していくことが最も大切なことです。前向きな人には、今以上にキャリアアップできる環境を整えてさしあげたいと思います。

家久さんの場合は聴覚障害ということで、コミュニケーションのとり方に工夫が必要ですが、朝礼や会議、プロジェクトの場だけでなく、直接仕事に関係しないことでも、様々な情報を共有するようにしています。サポート情報配信の仕事に携わってもらっていますが、営業担当者にはずいぶん喜ばれています。

障害をもつ方を受け入れたことで、社内のコミュニケーションが深まり、会社の雰囲気も変わったと感じています。



営業サポート課開発推進担当
かきゆうど
家久人 敏生さん
(聴覚障害)

Position

人の役に立てることは素晴らしいことです

金融業界でアナリストの肩書きで仕事をしていましたが、体調を崩して退職し、1年間静養して昨年1月から求職活動を始めました。ハローワークに行きましたが、データを扱う仕事などなかなかありません。半年以上世話になって、アデコを紹介されました。面接を受け、昨年10月30日付で入社、6ヵ月間の試用期間を経て、今年の5月から社員として働いています。働きたくても働けなかった時期が長かったせいも

あって、人に仕事を紹介したり、人の役に立てることは素晴らしいことだと思います。登録スタッフの方やクライアントと直接話ができるわけではありませんが、自分の仕事が、最終的に人の役に立てることがうれしいですね。今は社内の「新規開拓プロジェクト」に参画しています。前の会社とは文化がまったく違うので、戸惑いもありますが、皆さんに教えてもらいながら、日々勉強しています。